

第6部 資料編（令和4年度～令和7年度まで4年間の研究部会の歩み、栃木県教育研究発表大会における報告、研究部会委員一覧、参考文献・参考資料等）

1 SDGsの視点からの学習活動研究計画（令和4年度～令和7年度）

【資料1】令和4年度の歩み

当該年次の取組みの概要	児童生徒が発達段階に応じて人格形成を図る中、児童生徒には、「持続可能な社会の創り手（「学習指導要領」前文）」となる資質・能力の育成が求められている。この「創り手」にふさわしい資質・能力とは何なのか、そしてそれをどのように高めていくのか、さらなる授業の改善を目指し、実践を通じた実践事例集の作成を目的とする。
-------------	---

令和4年度の研究部会記録

第1日目	期日・場所	令和4年5月27日（金） 栃木県教育会館 小ホール
	概要	<p><研究協議></p> <p>(1) 令和4年度の研究スケジュールの確認</p> <p>(2) 研究活動に関する課題の整理と対策について協議</p>
第2日目	期日・場所	令和4年6月23日（木） 栃木県教育会館 大会議室
	概要	<p><研究協議></p> <p>(1) 研究活動の方向・方針及び計画等について協議</p> <p>(2) 研究活動に関する課題の整理と対策について協議</p>
第3日目	期日・場所	令和4年8月4日（木） 栃木県教育会館 大ホール、中会議室
	概要	<p><研究部会></p> <p>(1) SDGs「気候変動」に関する研修会への参加</p> <p><研究協議></p> <p>(1) アンケート調査について協議</p> <p>(2) 研究活動に関する諸課題について協議</p>
第4日目	期日・場所	令和4年10月21日（金） 栃木県教育会館 大会議室
	概要	<p><研究協議></p> <p>(1) アンケート調査について協議</p> <p>(2) 研究活動に関する諸課題について協議</p>
第5日目	期日・場所	令和5年1月6日（金）（オンライン） 研究スタッフの所属校または所属機関（勤務地）、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	<p>Zoom利用によるリモート形式での研究協議</p> <p><研究協議></p> <p>(1) アンケート調査について協議</p> <p>(2) 研究活動に関する諸課題について協議</p> <p>(3) 令和5年度 SDGsの視点からの学習活動研究部会に向けた検討</p>

【資料2】令和5年度の歩み

当該年次の取組みの概要	令和4年度に取り組んだ調査研究の成果を、令和5年度栃木県教育研究発表大会において報告することを念頭に入れて準備する。 令和4年度、令和5年度の研究成果を研究紀要第156集（中間報告書）として刊行するための編集作業を行う。また、本教育会ホームページに掲載するとともに、県内各学校（園）及び各教育関係機関等に案内通知を発出する。さらに、栃木県教育研究発表大会における発表資料とする。
-------------	--

令和5年度の研究部会記録

第1日目	期日・場所	令和5年7月27日(木) 栃木県教育会館 大会議室
	概要	<研究協議> (1)令和5年度の研究スケジュールの確認 (2)紀要第156集の原稿案について協議 (3)編集計画と刊行について確認 (4)栃木県教育研究発表大会での報告に向けた準備と計画について協議
第2日目	期日・場所	令和5年8月24日(木)（オンライン） 研究スタッフの所属校または所属機関（勤務地）、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	Zoom利用によるリモート形式での研究協議 <研究協議> (1)研究紀要第156集の刊行について協議 (2)令和5年度栃木県研究発表大会における発表者の決定 (3)資料作成、研究紀要第156集の活用、研究スタッフの協力・分担について協議
第3日目	期日・場所	令和5年11月16日(木)（オンライン） 研究スタッフの所属校または所属機関（勤務地）、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	Zoom利用によるリモート形式での研究協議 <研究協議> (1)アンケート調査結果について協議 (2)中間報告書、栃木県教育研究発表大会について協議
第4日目	期日・場所	令和5年12月26日(火)（オンライン） 研究スタッフの所属校または所属機関（勤務地）、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	Zoom利用によるリモート形式での研究協議 <研究協議> (1)栃木県教育研究発表大会について協議 (2)中間報告書について協議

【資料3】令和6年度の歩み

当該年次の取組みの概要	SDGsに関するアンケートの調査結果を踏まえ、SDGsを学校の授業にどう生かしていくのか、学習活動にどのように取り入れていくのか、SDGsの視点を取り込んだ授業実践に向けた検討・協議を行う。 研究授業実施後、SDGsと教育の関係を整理し、学校におけるSDGsへの取組みの新たな課題について研究する。
-------------	--

令和6年度の研究部会記録

第1日目	期日・場所	令和6年5月30日(木) 栃木県教育会館 大会議室
	概要	<研究協議> (1)令和6年度の研究スケジュールの確認 (2)授業実践に向けた計画(授業の実施時期、テーマ・内容)、達成したことをどう見取るのかなどについて協議
第2日目	期日・場所	令和6年7月22日(月)(オンライン) 研究スタッフの所属校または所属機関(勤務地)、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	Zoom利用によるリモート形式での研究協議 <研究協議> (1)授業実践に向けた校種毎の検討(テーマ・内容、教科・科目、指導案作成、実施時期等) (2)令和7年度の研究紀要第157集作成に向けた検討
第3日目	期日・場所	令和6年8月22日(木)(オンライン) 研究スタッフの所属校または所属機関(勤務地)、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	Zoom利用によるリモート形式での研究協議 <研究協議> (1)授業実践に向けた校種毎の検討(テーマ・内容、教科・科目、指導案作成、実施時期等) (2)令和7年度の研究紀要第157集作成に向けた検討
第4日目	期日・場所	令和7年1月7日(火)(オンライン) 研究スタッフの所属校または所属機関(勤務地)、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	Zoom利用によるリモート形式での研究協議 <研究協議> (1)令和7年度の研究紀要第157集作成に向けた検討 (2)令和7年度のSDGsの視点からの学習活動研究部会に向けた検討 (3)令和7年度の栃木県教育研究発表大会に向けた検討

【資料4】令和7年度の歩み

当該年次の取組みの概要	<p>令和6年度に取り組んだ授業実践の成果を、令和7年度栃木県教育研究発表大会において報告することを念頭に入れて準備する。</p> <p>令和6年度、7年度の研究成果を、研究紀要第157集として刊行するための編集作業を行う。また、研究紀要第157集を本教育会ホームページに掲載するとともに、県内各学校（園）及び各教育関係機関等に案内通知を发出する。さらに、栃木県教育研究発表大会における発表資料とする。</p>
-------------	---

令和7年度の研究部会記録

第1日目	期日・場所	令和7年5月30日(金) 栃木県教育会館 大会議室
	概要	<p><研究協議></p> <p>(1) 令和7年度の研究スケジュールの確認</p> <p>(2) 研究紀要第157集の原稿案について協議</p> <p>(3) 編集計画と刊行について確認</p> <p>(4) 栃木県教育研究発表大会での報告に向けた準備と計画について協議</p>
第2日目	期日・場所	令和7年7月24日(木) (オンライン) 研究スタッフの所属校または所属機関（勤務地）、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	<p>Zoom利用によるリモート形式での研究協議</p> <p><研究協議></p> <p>(1) 研究紀要第157集の刊行について協議</p> <p>(2) 栃木県教育研究発表大会における発表者の決定</p> <p>(3) 資料作成、研究紀要第157集の活用等について協議</p>
第3日目	期日・場所	令和7年8月21日(木) (オンライン) 研究スタッフの所属校または所属機関（勤務地）、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	<p>Zoom利用によるリモート形式での研究協議</p> <p><研究協議></p> <p>(1) 研究紀要第157集の刊行について協議</p> <p>(2) 資料作成、研究紀要第157集の活用等について協議</p>
第4日目	期日・場所	令和8年1月6日(火) (オンライン) 研究スタッフの所属校または所属機関（勤務地）、栃木県連合教育会3階資料保管室
	概要	<p>Zoom利用によるリモート形式での研究協議</p> <p><研究協議></p> <p>(1) 口頭発表者による発表予行 栃木県研究発表大会で用いる発表用P.P. スライド、レジュメ等の当日配付資料についての検討・協議</p> <p>(2) 紙上発表の発表案について協議</p>

【資料5】令和5（2023）年度 栃木県教育研究発表大会における報告

開催期日	令和6年1月26日(金)
会場	栃木県総合教育センター SDG sの視点からの学習活動研究部会
発表主題	SDG sの視点からの学習活動の現状と課題 ～栃木県内の学校を対象としたアンケート調査に基づいて～
報告者	宇都宮大学共同教育学部 准教授(当時) 出口 明子 宇都宮市立平石北小学校(当時) 教諭 渡辺 一博 那須塩原市立厚崎中学校(当時) 教諭 岡部 文弥 県立さくら清修高等学校 教諭 加藤 史幸 県立南那須特別支援学校 教諭 上田 美幸
概要	<p>[研究の意義として] 児童生徒が発達段階に応じて人格形成を図る中、児童生徒には「持続可能な社会の創り手（「学習指導要領」前文）」となる資質・能力の育成が求められている。持続可能な社会の創り手となる資質・能力の育成を目指すため、SDG sの視点からの学習活動について、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒、教職員、学校等を対象としたアンケート調査を実施し、校種毎にその結果と今後の研究の方向性について報告した。</p> <p>①4か年間の研究計画について 4か年の研究期間のうち、前半の2年間でのアンケート調査の集計や考察などを終えたところであり、後半の2年間ではアンケート調査の結果を踏まえ、SDG sの視点からの小学校、中学校、高等学校、特別支援学校での学習活動をデザインし、授業実践を展開していく。－児童生徒・教職員・学校へのアンケート調査結果－については、研究紀要第156集に掲載している。</p> <p>②持続可能な開発目標（SDG s）について 持続可能な開発目標（SDG s）とは、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標であり、将来にわたって社会や地球を良くするための思考・行動ができる人材を育成することが大切である。</p> <p>③小・中学校における現状と課題 小学校では、児童は「住みやすさ＝環境改善・科学の発展」という認識がある。教員としては、SDG sに関する活動の難しさを認識しているが、環境教育・食育に関する授業において関連させて実施していることから、SDG sを関連づけた授業の実践例を示すことが必要となる。中学校では、授業でやったことは生徒の中に残っていることから、授業で扱うことで生徒に気付かせることができること、世界で起きていることへの関心、当事者意識をもたせる取組が学校教育では重要であることを説明した。</p> <p>④高等学校・特別支援学校における現状と課題 高等学校では、課題としてSDG sを取り入れた学習活動は実践の機会が少なく、実践している場合でも総合的な探究の時間に限られることがわかった。SDG sにかかわる学びを深めさせることで、進路に対する幅広い視野を持たせたいと考える。特別支援学校では児童生徒の意識として、SDG sとの関連を理解しているかは分からないが、生活の中で繰り返し行われているSDG sに関する活動が身に付いていて、大切さ・重要性を感じている。生活の中で経験が少ないSDG sに関する活動は、興味・関心が低く、活動できていない。今後、学校が目指すこととして、教員がSDG sに関する正しい知識と高い意識をもつこと、学校行事や授業などの教育活動にSDG sを意図的に関連づけること、継続した実践的な活動を行うことなどがSDG sの活動の定着につながると考える。</p> <p>⑤今後の課題 県内の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を対象に実施したSDG sに関するアンケート調査結果を分析し、現状や課題を把握することができた。今後、その結果をもとに授業実践を行うなど、SDG sと教育の関係を整理し、学校におけるSDG sへの具体的な取り組みについて提案していきたい。</p>

【資料6】令和7（2025）年度 栃木県教育研究発表大会における報告（予定）

開催期日	令和8年1月30日(金)		
会場	栃木県総合教育センター SDG sの視点からの学習活動研究部会		
発表主題	SDG sの視点からの学習活動研究部会報告 ～持続可能な社会づくりの担い手を育むために～		
報告者	宇都宮大学共同教育学部 小山市立豊田小学校 宇都宮市立横川中学校 県立宇都宮中央高等学校 県立足利中央特別支援学校	教授 出口 明子 教諭 吉田 誠也 教諭 高松 千恵実 教諭 田中 理 教諭 梁木 佳奈子	
概要	<p>[研究の意義として] 各学校等へのアンケート調査結果を踏まえ、SDG sを学校の授業にどう生かしていくのか、学習活動にどのように取り入れていくのか、SDG sの視点を取り込んだ授業実践を行うなど、SDG sと教育の関係を整理し、学校におけるSDG sへの取り組みについて研究した成果について報告する。</p> <p>①SDG sの視点からの学習活動を展開することの意義 研究部会ではこれまでに、学校におけるSDG sに関する取り組みに関する調査、それに基づく課題整理、さらにその課題を踏まえて授業実践研究を展開してきた。教科の学びや探究的な活動を通じて、児童生徒が社会課題を自らの問題として捉え、協働的に解決へと向かう力を育てることこそが、SDG sの視点を取り入れる最大の意義がある。</p> <p>②小・中学校における現状とこれから 小学校では、特別の教科「道徳」に関わる「働くこと」をテーマにした授業実践研究を複数実施している。道徳科が本来もつ「価値の自覚」「自己の生き方の形成」という機能を、SDG s目標8「働きがいも経済成長も」と結びつけた授業実践である。中学校では、各教科の専門性を生かし、日頃行われている授業を通してSDG sの視点からの学習活動を展開している。各教科の学習内容をSDG sの目標と結び付けながら、身近な課題を科学的・社会的に捉え直し、持続可能な社会の形成に主体的に関わる力を育むことをねらいとして授業実践を行った。</p> <p>③高等学校・特別支援学校における現状とこれから 高等学校では、「地理探究」や「総合的な探究の時間」における進路探究を中心に、持続可能な社会づくりに関する課題を主体的に探究する学びが展開されている。特別支援学校では、小学部と高等部の知的障害のある児童生徒を対象に、「普段行っている活動とSDG sを結びつけ、その活動の主体的な行動を育成する。」ことを目標とした授業実践である。</p> <p>④今後の展望 4年間の研究活動を経て、学校におけるSDG sの視点からの学習活動に関する今後の展望を述べるとすれば、SDG sを一過性のテーマではなく、学びそのものを貫く価値観として再構築することが求められる。本研究部会が取り組んできたSDG sの視点からの学習活動に関する研究実践が、次代の学校教育における児童生徒の「社会の未来を創る力」を育む学びに資することを期待したい。</p>		

2 SDGsの視点からの学習活動研究部会組織（令和4年度～令和7年度）（所属、職名は当時のもの）

区分	所 属	職 名	氏 名	備 考
部会長	宇都宮大学共同教育学部	准教授 教授	出口 明子 ”	令和4年度～令和5年度 令和6年度～令和7年度
指導助言者	県教育委員会事務局 義務教育課	指導主事 指導主事 指導主事	荒木 諭 久我 逸就 青柳 忠臣	令和4年度 令和5年度～令和6年度 令和7年度
指導助言者	県教育委員会事務局 高校教育課	指導主事 指導主事	赤坂 賢一 上野 智貴	令和4年度 令和5年度～令和7年度
指導助言者	県教育委員会事務局 特別支援教育課	指導主事 指導主事	長谷川 貴子 齋藤 佳紀	令和4年度 令和5年度～令和7年度
指導助言者	県総合教育センター 研究調査部	副主幹 指導主事	伊藤 昌夫 十市 祐輔	令和4年度 令和5年度～令和7年度
指導助言者	宇都宮市教育委員会事務局 学校教育課	副主幹・ 指導主事 指導主事	橋本 譲 村上 達也	令和4年度 令和5年度～令和7年度
委員	宇都宮市立平石北小学校 宇都宮市立岡本西小学校	教 諭 教 諭	渡辺 一博 田中 真央	令和4年度～令和5年度 令和6年度～令和7年度
委員	真岡市立長田小学校 芳賀町立芳賀南小学校	教 諭 教 諭	福田 瞳 小野口安津紗	令和4年度～令和5年度 令和6年度～令和7年度
委員	栃木市立岩舟小学校 小山市立豊田小学校	教 諭 教 諭	土屋 葉月 吉田 誠也	令和4年度 令和5年度～令和7年度
委員	佐野市立赤見小学校	教 諭	谷 愛	令和4年度～令和7年度
委員	宇都宮市立横川中学校	教 諭	高松千恵実	令和4年度～令和7年度
委員	鹿沼市立北押原中学校 県総合教育センター 研究調査部	教 諭 指導主事	若色 淑恵 ”	令和4年度～令和6年度 令和7年度
委員	那須塩原市立東那須野中学校 那須塩原市立厚崎中学校 那須塩原市立塩原小中学校	教 諭 ” 教 諭	岡部 文弥 ” 中村 友亮	令和4年度 令和5年度 令和6年度～令和7年度
委員	県立宇都宮清陵高等学校 県立宇都宮中央高等学校	教 諭	田中 理 ”	令和4年度～令和5年度 令和6年度～令和7年度
委員	県立さくら清修高等学校	教 諭	加藤 史幸	令和4年度～令和7年度
委員	県立盲学校 県立足利中央特別支援学校	教 諭 教 諭	小川 友紀子 梁木 佳奈子	令和4年度 令和5年度～令和7年度
委員	県立南那須特別支援学校	教 諭	上田 美幸	令和4年度～令和7年度
事務局	(一財) 栃木県連合教育会	会 長 会 長	津野田 誠一 高橋 利和	令和4年度～令和5年度 令和6年度～令和7年度
		常務理事 常務理事	川口 滋 伊澤 雅幸	令和4年度～令和5年度 令和6年度～令和7年度

(敬称略)

3 参考文献・参考資料等

(小学校)

- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）」
- ・ 文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月告示）」
- ・ 東京書籍キャリア教育・職業調べサイト「EduTown あしたね」

(中学校)

- ・ 文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）」
- ・ 文部科学省「中学校学習指導要領解説 理科編（平成 29 年 7 月告示）」
- ・ 文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編（平成 29 年 7 月告示）」
- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 公民編（平成 30 年 7 月告示）」
- ・ SDGs「ウェディングケーキモデル」Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University CC BY-ND 3.0.

(高等学校)

- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示）」
- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（平成 30 年 7 月告示）」
- ・ 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 理科編（平成 30 年 7 月告示）」
- ・ 外務省「JAPAN SDGs Action Platform」https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf
- ・ 大西宏治訳「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言(全訳)」(『新地理』55(3・4))、2008年)
- ・ 田部俊充「高校地理歴史科新科目「地理総合」の課題と方向性—GIS への取り組みを中心に—」(『日本女子大学紀要(人間社会学部)』28、2017年)
- ・ 濱川栄「次期高校地歴科学習指導要領解説に見える問題点」(『教育研究実践報告誌』第3巻、2020年)
- ・ 谷田川ルミ、栗島英明「学校教育におけるESDの実施状況と教員の意識—中学校、高等学校に対する全国調査の結果から—」(『千葉大学 公共研究』第18巻第1号、2022年)
- ・ リクルート総研 金剛寺千鶴子「大学にとってのSDGs/SDGsに関する高校生調査」(リクルート総研、2023年) <https://souken.shingakunet.com/higher/2023/04/sdgssdgs.html>

(特別支援学校)

- ・ 文部科学省「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）」
- ・ 文部科学省「特別支援学校 高等部学習指導要領（平成 31 年 2 月告示）」
- ・ 文部科学省「特別支援学校 学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)（平成 30 年 3 月）」
- ・ 文部科学省「特別支援学校 学習指導要領解説 知的障害者教科等編(上)(高等部)（平成 31 年 2 月）」
- ・ 文部科学省「特別支援学校 学習指導要領解説 知的障害者教科等編(下)(高等部)（平成 31 年 2 月）」
- ・ 豊田真之、平瀬謙太郎：作詞 豊田真之：作曲(2021)『SDGsのうた』日本放送協会
- ・ 日本ユニセフ協会ウェブサイト <https://www.unicef.or.jp>
- ・ バウンド(2020)『こどもSDGs★なぜSDGsが必要なかがわかる本★』(秋山宏次郎(一般社団法人こども食堂支援機構代表理事)監修)株式会社カンゼン
- ・ 真珠 まりこ(2004)『もったいないばあさん』講談社
- ・ MERRY PROJECT(2023)『みんながヒーロー SDGsとまほうのカギ』中央公論新社
- ・ JTBパブリッシング(2022)『るるぶ SDGsすごろくゲーム』JTBパブリッシング

一般財団法人 栃木県連合教育会
研究紀要 第157集

「SDGsの視点からの学習活動研究部会」報告
—持続可能な社会づくりの担い手を育むために—

発行日 令和8（2026）年1月

編集・発行（一財）栃木県連合教育会

〒320-0066

栃木県宇都宮市駒生1-1-6

T E L 028-625-5228

F A X 028-625-5224

E-mail kenkyu@tochigi-rk.jp

印刷所 晃南印刷株式会社